

環境首都札幌推進協議会

第7回会議

議 事 録

日 時 : 平成22年11月10日(水)午後3時30分開会
場 所 : 札幌市下水道科学館 1階 レクチャールーム

1. 開 会

事務局（小野） それでは、定刻になりましたので、見学会に引き続きまして、これより環境首都札幌推進協議会の第7回会議を開催させていただきます。

議事に入りますまで、私、小野が進行をさせていただきます。

まず、本日の会議の出席状況でございますけれども、本日は9人ということで過半数に達しておりますので、会議は成立していることをご報告いたします。

次に、配付資料の確認でございます。お手元の資料をご確認頂きたいと思っております。

次第、委員名簿と座席表が両面印刷になっております。それから、資料1としまして、本日発表して頂きます宮本尚委員の発表資料をクリップでとめているかと思っております。資料2としまして、環境首都札幌推進協議会の活動報告書作成についてという1枚物があるかと思っております。その他、パンフレット類ですけれども、さっぽろ環境賞表彰式パンフレット、環境活動発表会発表概要集、環境情報誌「えこぼろ」の11月号、パンフレットの「札幌市の環境教育」、同じく、さっぽろこども環境コンテスト2010のチラシです。以上の5点のパンフレットをお配りさせていただいております。

それでは、早速でございますけれども、この後の議事進行につきましては、小林会長にお願いしたいと存じます。

小林会長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

小林会長 皆さん、今日は、時間をとってここにお集まりくださいまして、大変ありがとうございました。

早速議事に入りますが、今日の議題（1）は、第2回札幌市環境関連施設見学会についてということで、今日施設をご覧頂いた感想を、時計回りの順序で、簡単で結構ですので、聞かせていただけたらと思っております。

井下委員 井下です。

私は、地元が大分県の佐伯市というところですがけれども、高校を卒業して友人と地元の下水処理場を見学したことがあって、そこと何か違うのかなと思いきや、余り変わらず、全国的にこういう感じなのだということになりました。微生物を使うということが原始的なのだとか、それが逆に新鮮でした。

以上です。

大野委員 イオン北海道の大野でございます。

入館数を見ますと、子どもさんの数の方が多いということでございます。多分、私も小学校の時にこういう施設を見学したのではないかと思うのですがけれども、全く忘れてしまって、新鮮な気持ちで、すごいなと思いながら聞いていました。ありがとうございました。

久保田委員 公募委員の久保田です。

今日、私がテーマにしてきたのが二つあります。

一つは、汚泥の処理、出てきたものをどうやって処理しているのかということに非常に関心があります。その一つがコンポストという話だったのですけれども、そのコンポストが平成25年ぐらいでやめられてしまうということで、私にとっては非常に残念な思いです。何か工夫してリサイクルという形でできないものか。人間が活着ている以上はずっとやっていかなければならない話なのに、その後ろの方の処理が社会的に仕組みとして成り立たなければ、また問題を起こすのかなという気がしました。そういう意味では、何が問題で、どういうふうになればよくなっていくのかということについて、もう少し情報があればよかったなと思いました。

もう一つは、キャラクターが4種類あって、非常に人気が高く、売れるのですよという話を聞きました。実は今、ソーシャルビジネス化というキーワードのもとで、環境社会をつくっていくために、第三のビジネスというか、事業体というか、そういうものが注目されているところですが、そういうことを進めるための準備はここら辺からやれるのかなという印象を受けました。

以上です。

佐々木委員 公募委員の佐々木です。

今回、見学させてもらいまして、下水の処理の管理は合流式と分流式があるのだということで、大人にも子どもにもわかりやすい形で説明を受けたことは大変印象に残りました。

それから、説明員が言っていました、下水のマンホールはどうして丸いのかわかりますかという話ですね。何となく丸い方がいいのかなと思っていたのですけれども、丸いものはそれぞれの対角線の長さが同じだから絶対落ちたりしない。逆に、四角とか長方形というのはそれぞれ長さが違うので、中にはまったり、外れたりした時に事故のもとになる。ですから、丸い形が一番いいんですよという話を聞きまして、感心いたしました。

38名の職員が日夜頑張っているということで、非常に感銘を受けてまいりました。

ありがとうございました。

宮本(尚)委員 きたネットの宮本です。

札幌ぐらい雪が降る大都市は他に無いという話を聞いています。下水道施設が冬季に融雪のシステムに使用されているということが一番興味深かったです。

以前に藻岩の水道記念館に行ったことがあるのですが、そこで豊羽鉦山の砒素が上水に混ざる時の危機管理のために、上水道のバイパスをつくっているという話を聞きました。

その二つがとても印象に残りました。

曲戸委員 建築士事務所協会の曲戸です。

この施設は、たしか5年ぐらい前だったと思うのですが、小学生の子どもと一緒に来たことがありまして、その時の印象は、物すごく臭いがきつかったのです。今日は全然そんな感じがしなかったので、雨が降るとこんなに違うのかと思いました。今日は本当によかったです。

あと、ちょっと気になったのは、電気代がすごいですね。(1日で)50万円ですか。

その辺はちょっとエコできればいいのかな、しかし、仕方が無いのかな、このように感じています。

新保委員 新保です。

今日は、すごく楽しみにして来ました。ありがとうございました。

BODが有機物に対する処理だということで、先ほど、(事務局の)西岡さんの方からNBODもあるのだと教えていただいたのですけれども、有機物以外の化学物質の見えてこないところはどういうふうになっているのかという素朴な疑問がありました。

あと、自宅の台所でも、大きなものはネット等で止めているのですけれども、それと同じように、下水についても途中でネットを設けて、そこに付着させているのですが、そのごみ処理はすごく大変な作業なのではないかと思ったのです。すごく大変なところまで一般の人が知る機会はなかなか無いのですが、市民に、そういう大変な処理をしてお金もかかってということをやんと知っていただくためには、そういうこともオープンにして、大変なのだということを率直に教えていただくと、もっとありがたいと思いました。

あと、私たちは恵まれた街に住んでいるなと思いました。世界の中には下水処理をしていない国がたくさんあるのではないかと思うのです。ですから、健康や生活を守っていただいているということは、すごくありがたいと感じました。

ありがとうございました。

小林会長 本当にどうもありがとうございました。

先ほど、曲戸さんから、以前は臭かったという話がありました。前は、人間が出しているものはこんなものかと目に見える状態があったわけですね。それをだんだん見えない化しているのです。実は、ここも全部オープンで曝気槽^{ばっきそう}も見えていたのですけれども、落ちることの危険や、臭いとともに、飛沫でウイルスが飛ぶとか、いろいろな問題のために全部カバーをしてしまったので、自分たちが出したものがどんなもので、どうやってきれいになるかという様子が見えなくなったのです。見えないと、かえって無責任な市民がどんどん増えてくるので、今、ドイツでは、下水道のオープン化をやっています。わざわざパイプラインで埋めてしまうから人々はわからないのだ。それを水路で見せて、これは大変だと思わせるという流れもあります。見える化と見えない化ですね。臭くない、好感を持ってもらえるという処理場を見学していただいたのです。それはなかなかおもしろいと思いました。

それから、下水道というのは、パイプラインは全部地下に埋まっているので、地上で見えるものは処理場だけなのです。だから、投資金額の9割以上がパイプラインに入るといことなものですから、こういう形で皆さんに認識してもらわなければならないということで、下水道科学館を14年前に張り切ってつくったのです。

最初につくったのは小平市です。小平市が、下水道の勉強をしてもらおうということで、下水道館というものを思い切ってつくったのです。

もう一つは、ここは無料で年中開けているのに、委員の先生方でもなかなか来ておられ

ないということですので、やはり、これからは積極的に認識を持っているいろいろなものを見ていただけたらと思います。

あと、先ほどの化学物質云々というのは、下水が生で川に入ると、川の中で分解する時に酸素を全部消費してしまうので無酸素状態になります。それで、アンモニアとかメタンが出て魚が全部死ぬということを解決しようということで、発達して、今に至ったのが、今日見ていただいたような下水処理場ですから、今、おっしゃられるような溶解物に関してはほとんど処理できていないのです。だから、酸化で分解させるのと、吸着ですね。下水道のいろいろな汚物が吸着して相当落ちるので、ほとんど処理できていないと言うと語弊がありますけれども、上流でいろいろな化学薬品が流されます。京都の西陣地域なら染料ですね。だから、真っ赤な水が来たり黄色い水が来たりするのですが、それはオゾンで分解しているわけです。

あとは、流域内に住んでいる人はいろいろな薬を飲んでいきます。抗がん剤等いろいろなものを飲んでいきますけれども、全量を吸収されていないので小便で出るわけです。それが川の中に出た分が、例えば淀川の下流部とか、オランダでも非常に問題になっているところですよ。そういう浄水場でも下水処理場でも除去できないものを僕ら人間社会ではたくさん使っているということです。それで、便所でばっと流して一件落着で関心を持たないという問題点は、琵琶湖の下流部等で、微量人工汚染物質についてのフォローをいろいろやっています。

次のステップでは、そんなことが必要かもしれません。

太田副会長 私も、20年以上前に一回来まして、第1処理場ですか、そこを見ました。その時は、オープンですから、非常に臭いもしましたし、目の前で見えていて、なるほどなと思ったのですが、今日は、きれいな第2処理場を見せていただいて、先ほど皆さんがおっしゃったように、臭いもしないし、きちんとつくってあるなという感じがしました。

札幌市の下水道は、最初からかなり整備されていまして、今は九十何%ですか、日本でもトップクラスの普及率を誇ります。日本全国のいろいろな都市でどんどん下水道が整備しているわけですが、先ほどもお話があったように、50年で下水道の管を交換しなければならないということで、莫大なお金がかかるわけです。ですから、これからどのようにやっていくのかなど。やっていかなければならないのですけれども、今、例の仕分けの問題でもあるように、当座1年、2年のことに関して非常にうるさく言うのに、10年、20年かけてやらなければならないようなことを、きちんとそれだけお金をキープしておかなければならないことを、今の仕分け作業のあの人たちは考えているのか、そういうことを私はいつも考えているのです。

小林会長もおっしゃったように、ダム等の問題もそうですけれども、当面いいということと、ロングレンジで見て将来のためにどうしなければならないかということもちゃんと考えておかなければまずいだらうと思います。これから札幌市の方も下水道をだめになら

ないようにいろいろコーティングするとおっしゃってましたね。そういうことをやっていかなければならないだろうと思います。それはこれから非常に問題だろうと思いました。

小林会長 どうもありがとうございました。

食事の洋風化に伴って有機物と油の非常に多い下水が出るようになってしまったわけです。それが、あちこちでこびりついたり、沈殿したものが腐敗をして、硫化水素その他のガスが出てきて、臭い街になっていくわけです。そうならないようにするために、下水管の掃除を、60センチぐらいまで潜って、またはテレビカメラでずっと監視した上で、掃除とかりプレースその他をどこの都市もやらなければならないのです。それで、水道から下水道のパイプラインがどんどん老化するわけです。それは、何年に埋めたパイプ、何年に埋めたパイプということがわかっていますので、やはり、30年とか40年ごとにそれを全部入れかえていかなければならず、その費用は住民が払わなければならないわけです。下水の費用は、雨水の排除の部分は国費で扱うけれども、汚水は、発生原因者負担ということで、下水道料金で回収してやっていかなければならないので、そういうことも認識していただいて、パイプラインもリプレースしなければならない、処理場もリプレースしなければならないということで大変お金がかかるということに驚いていただけたらと思います。

では、さらに何か追加してお話しくださる人はいませんか。いいですか。

(「なし」と発言する者あり)

小林会長 では、議題(2)に入りたいと思います。

委員の取組発表ということで、今回は宮本尚委員にご発表をお願いしております。

宮本委員、どうぞお願いいたします。

宮本(尚)委員 NPO法人北海道市民環境ネットワークの宮本と言います。

お手元に資料がありますが、私どもの団体には、環境団体のネットワークと中間支援という二つの役割があります。資料1ページの一番下が定款に書いてある目的で、北海道のめぐみ豊かな自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐ、そのためのネットワークと基盤強化のための支援、それから、パートナーシップをつくって北海道の環境保全に寄与することを目的としております。

ネットワークには、北海道内の環境活動をしているNPO等の団体と、支援をしてくださっている団体・企業が入っています。個人の方も、賛助会員や個人会員(議決権を持った会員)として参加しています。目指すものは、人、物、資金、情報、ノウハウ、専門性、システムというものを交流の中でお互いに出し合って、北海道の環境活動を活性化、効率化し、クオリティーの高い活動、成果を生み出していこうということで、そのための事務局というか、拠点としてつくられています。

初めは市民が中心のネットワークでしたが、最近は、行政、企業、大学等とのパートナーシップが大分広がりがつあって、基盤が広がってきたなと思っています。

歩みとしては、2002年11月設立です。任意団体でスタートして、2006年に法

人化が決定し、2007年に法人になりました。

今、理事長が2代目で秋山孝二と言います。

会員数ですが、順調に上がってきたのですが、なぜ今年下がったかという、行政の仕事のサポートをしていたNPOが、業務縮小とか、事務局を閉じたり、あるいは、他の団体と一緒に事務局をやるようになった、というような例が出てきています。そういうことは市民団体にも影響が出てきています。

会員には、有名などころでは霧多布湿原トラストさんとか、委員の井下さんが入っている環境NGO ezorock、新保さんのひまわりの種の会などが会員になってくださっています。

資料2ページの下の方に小さく書いてあるのは、支援してくださっている企業です。資料3ページは、どんな団体がどんな活動をしているかということです。これは、ちょっと古いアンケートなので、その後変わっていると思うのですが、うちの特徴として、全道であるということと、自然環境に関する団体が非常に多いです。

事務局は札幌にあり、日ごろの交流の中から団体が入ってくれるので、半分ぐらいは札幌の団体です。

事務局をやっている、これはきたネットのいいところだと思うのは、会員同士のもめごとや悪口がうちの事務局にほとんど入ってきません。団体が集まると、大体、そういうことがあるのですが、なぜないのか。それは、うちは有料だからで、お金を払って入る団体だからだと思っています。意思を持って他の団体とネットワークを組もうと、そのために年間5,000円払うという団体が入ってくれているので、会合でも交流会をしても、非常に友好的で、事務局としては非常に恵まれた環境で、気持ちよく仕事をさせてもらっていると思っています。

どの団体も、高齢化、人がいない、資金は助成金等を使っているのが不安定で、来年やれるかどうかわからない。あるいは、高齢化と結びつく部分が多いのですが、IT関係の情報発信力の問題等の悩みを抱えていて、その部分で中間支援としてうちが相談に乗ることが多いです。

資料4ページは最近の活動から、いくつか、札幌市に関わりのあるNEWSをピックアップしてきました。円山動物園との共催のフォーラム開催とか、ラブアースの森というものを茨戸でやっています。あと、環境省主催の生物多様性フォーラムを今年、共催団体としていっしょに開催したりしています。昨日さっぽろ環境賞をいただいた事業、ラブアース・クリーンアップin北海道というのがあります。あとは、もう終わった事業ですが、今年にはさっぽろいきものみつけという事業をやりました、これは、環境省の生物多様性センターがやっているいきものみつけという事業を、自然活動をやっている会員団体に一緒にやらないかと声をかけましたら、6団体が一緒にやると言ってくれて、それと円山動物園にも声をかけて、7団体で札幌市内のいろいろな所で自然観察会を今年やりました。これは、環境省から謝金も出たので、うちからネットワークでいつもお世話にな

っている団体にちょっとお礼もできて、来年これで会費払ってね、というコミュニケーションもできて、藻岩山とか円山とか定山溪とかいろいろな自然観察会を楽しくやりました。

きたネットの運営資金は、助成金が大きな割合を占めています。セブンイレブン記念財団との協定による助成金の他に、今年は三井物産環境基金さんからいただいたり、札幌市のさぼーとほっと基金のお世話になったり、いろいろな苦労しながらやっています。

それから、10月、ついこの間ですが、市民活動助成セミナーという助成金を出している団体を集めて講座をやったのですけれども、その時は、札幌市のさぼーとほっと基金にもお話をして頂きました。この内容が今、ユーストリームと言うインターネットの動画配信のアーカイブスに入っています。きたネットのホームページのトップから見られますので、全国の助成金がどんな目的でどんなふうに使っていて、どういうポイントを持っているとか、申請書はどうやって書くとか、そういうのが比べて聞けるのでぜひ見てください。

写真ですけれども、真ん中が札幌市のラブアースの森と茨戸の協定を結んだ時の写真です。真ん中が上田市長です。左側が去年のさっぽろ環境賞をとった森林（もり）遊びサポートセンターの小林さん、右側がうちの理事長です。その下が、昨日撮ってもらった写真をさっそくもってきたのですけれども、さっぽろ環境賞をいただいた時の様子です。

今年から札幌市と関わってやった事業を幾つかピックアップしてきました。左側のがいきものみつけ、その隣が、5月に環境プラザや環境省と一緒にやった北海道の生物多様性フォーラムです。右から2番目が円山動物園と共催でやらせていただいた今年のきたネットフォーラムで、都市とヒグマとの共生です。一番右側が今の助成セミナーです。

資料5ページの上が、ラブアース・クリーンアップin北海道と言って、昨日さっぽろ環境賞をいただいた、うちの間接支援でもなくネットワークでもない、自主事業です。

今年は最終集計中ですが、全道2,500団体企業、5万人が参加しているもので、全道でやっているごみ拾い活動を登録してもらって、それを集約して、こんなにやっているのだということをアピールすることで、周りの人に環境について考えるきっかけを持ってもらうということです。あるいは、ごみ拾いをした方というのは、その時に、これから二度とごみを捨てないぞとか、汚いなとか、いろいろなことを考えてくれるので、それをきっかけに環境のことを考えるステップにしてもらいたいと思っています。

今は7年目で、最初は何千人から初めて、今はここまで来ています。

札幌市からは約600団体です。郵便局もやっていただいています。2006年から札幌市の児童会館がほとんど参加してくれていまして、今年も五千何百人です。子どもたちが参加してくれているので、何か次の学びに繋がりたいと思って、今年、円山動物園に協力していただいて、北海道の野生動物のカードを作って、子どもたちがごみ拾いをすると参加証をあげているので、その参加証を円山動物園のカウンターに持ってきてくれたら動物カードをあげるということをやってみました。数百人の子どもたちが来てくれたようです。結構喜んでもらってくれたということです。

あとは、右側の写真ですけれども、コンサドーレ札幌と共催のごみ拾いとか、企業の清掃活動の指導とか、そういうのもやっています。

当会の課題ですが、「きたネットさん何人職員がいるのですか」と言われるのですが、3、5人ぐらいしかいません。一番は人手の問題です。事業が大きくなると、誰がそれをやっていくのか。また資金面では、助成金が来年も取れるかが直前までわからない。今年は、三井物産からラブアースの助成金をいただいて、初めて来年も開催できるという確信ができました。毎年毎年、次年度はどうするのか、継続できるのか、悩みながらの事業です。ラブアースの参加人数の目標を、皆さんは軽く100万人までがんばれ、とか言うのですけれども、今の体制では難しいですね。

また、ごみ拾いから次のアクションへということで、ラブアースの森づくりという活動があります。これは、ごみ拾いに参加してくださった人に森づくりをやりませんかと呼びかけて、一緒に少しずつやっています。これも本当は全道でやりたいのですが、人手と資金が無いので2カ所ぐらいしかできていません。今年は札幌と白老の2カ所で植樹・育樹をやりました。

この森づくりの課題は、これは大きな問題なのですが、今、企業がすごく森づくりに関心を持っていて参加希望も多いのですが、規模を拡大するにはそれなりの人手・資金が必要なので、企業の方を大人数で受け入れるのは難しく、企業参加は協賛金をいただいた所だけ、とお断りをしている状況です。企業は一般参加者としてではなく、協働、例えば、バスを一緒に出してもらって、そこに市民を乗せてくれるとか、そういう協力をお願いしたいです。私どもは市民と団体と企業をつないでいきたいと思っているので、ともに持続可能な参画を考えていければありがたいと思っています。

次に、これが今日お話ししたいことなのですが、今、きたネットが幹事団体として取り組んでいる環境省の設置したEPO北海道と北海道設置の北海道環境財団、札幌市の環境プラザと民設のきたネットの4団体で、環境中間支援会議・北海道というものを2年越しでやっています。協力として、北海道大学のGCOEプログラムとも連携したりしながら会議をやっています。

この会議は何のためにやっているかということ、設置団体が違うだけで何が違うのかわからない中間支援組織がなぜ札幌にこんなにいっぱいあるのか。それは、ユーザーから見たら本当に何をやっているのかわからない。どこを利用していいのかもわからないし、何が得意なのかもわからない、ただ、同じようなことを同じように重複してやってむだなだけではないかという意見がずっとあったのです。この4団体は、これは問題だなという意識は持っていたのです。それぞれのスタッフが、業務の中でいろいろなところで顔を合わせていて、日ごろから情報交流はすごくあったものですから、それで、縦割りをやめないかと、もしかしたらやれるかもということで、4団体で会議を持ちたいと言いましたら、不思議と、どこもいいですよということになって、2年前スタートすることができたのです。この会議の特徴は、設置団体の環境省、北海道、札幌市も、会議やワークショップに出て

きてくれたり、一緒に取り組んでくれているところです。

会議というのは、何をやっているかわからないのですね。私どもは、会議の成果を絶対形にしよう、見える化しようということで、まず1年目は協働でインターネット上に環境イベントカレンダーを作りました。それがE d a y H O K K A I D Oです。それが1年目の成果です。

縦割りだと、4施設で例えばホームページをつくるにしても、そのネットを借りるお金など、どこから出せばいいのか、こういう横のつながりのための資金を出す仕組みがないのですね。どうしようかということになって、民間の助成金をもらおうと考えました。実は、その前から4者共催で助成金説明会をやっていたということもあって、パナソニックから課題解決を主旨とした助成金をもらってみようということになりました。その年、初めてコンソーシアム助成というものが設立されたので応募しましたら、全国第1号でいただくことができました。この助成申請についても、4団体で民間の助成金に応募したいと言ったら、環境省も北海道も札幌市も、問題なくオーケーが出たのです。言ってみるものだ、やればできるのだなという不思議な感覚が今でもあります。

その助成金をもらって、今、ワークショップをしたり、勉強をしたりしています。

この助成金の成果のひとつ、見える化としては、環境 ナビ北海道という北海道の環境活動の情報を集めたポータルサイトをもうすぐオープンさせる予定です。今、その制作をしており11月中にオープンをめざしています。今は4団体でやっていますが、このホームページ等が完成したら、全道の間支援組織にも協力してもらって、全道規模の情報をトータルに集めていきたいと考えています。

最後に、次に何をを目指すのかということです。

きたネットの目的の一つは、北海道の環境、環境活動の素晴らしさを道民一人ひとりが再認識して、自分たちは素晴らしい宝物を持っていると知ってほしいのです。環境活動しているリーダー格の人は、実は半分ぐらい、本州から北海道が好きで来た人なのですね。生まれたときから豊かさにかこまれてくらししていると、その素晴らしさが案外わからないものです。そこを伝えるアプローチをしていきたいということです。世界に誇れる北海道なのです。この間、円山動物園で開催したフォーラムでヒグマについて学んだら、北海道はヒグマの生息環境の南限なのだそうです。そのヒグマの1頭当たりのテリトリーは、シベリアに行くと、1頭に2,000ヘクタールくらいの面積があるそうです。しかし、北海道のヒグマは1頭につき15ヘクタールで暮らしているそうです。それは、四季があって、豊かな自然があって、彼らが生きていくためのサケも上がり、どんぐりや野草もいっぱいあり、ヒグマが暮らすために必要な資源がその15ヘクタールの中にあるということです。その豊かさを北海道の一人ひとりが自覚して、ヒグマも私たちも豊かな自然にはぐくまれて生きていくということを感じてもらいたい。私たちの暮らしをもっともっと誇りに思うことができるような情報提供や活動支援をしていきたいと思っています。

自然と共生するというのは、自分たちがぼんやりしていたら共生できないわけです。クマ

も出てくるし、エゾシカも出てきます。ウルシにかぶれたりもします。危ないこともあります。自然と一緒に暮らすには知識と経験とスキルが必要です。そのことをきちんと出していきたくて考えています。例えば、ヒグマとの共生でしたら、渡島総合振興局のホームページに、ヒグマとどうやって一緒に生きていくのかというマニュアルがあります。本当に北海道の人一人ひとりに読んでもらいたいという資料がただで見られるので、よかったら皆さんも見ておいてください。

もう一つは、企業、行政、NPO、市民の本当のパートナーシップとは何だろうということ。さきほど市民団体の高齢化や助成金頼りの運営の不安定さについて少しお話ししましたが、市民活動を支えていくということはどういうことだろうか。きたネット自身も非常に苦しく、持続不可能のNPOと呼ばれています。そこをどうやって支えていくのかということ、ここにいる皆さんにも相談に乗ってもらえればと思っています。

それから「環境中間支援会議・北海道」が目指すものですが、「かけがえのないこの自然環境や資源を次世代に引き継いでいくためには、私たち道民が北海道の持つ価値と可能性を再認識し、「持続可能な社会」実現を目指す取組を広げ、その質を高めていくことが不可欠です。私たち「環境中間支援会議・北海道」は、この地が、世界に誇れる「持続可能な社会」となるよう、道内の取組や必要な情報を収集、整理、発信していきます。さらに、それらを道内、国内はもとより、世界の人々と共有し、ともに行動できるよう、さまざまな主体による取組を支援します。」というものです。

以上です。ありがとうございます。

小林会長 宮本尚委員、どうもありがとうございました。

実にいろいろなことをやっておられまして、いろいろなスライドを見て頂きました。

この場で宮本尚委員にご質問、コメントはございませんか。

井下委員 この環境中間支援会議・北海道というのは、今初めて聞いて、本当に素晴らしいと思いました。これは、呼びかけはきたネットなのですか。

宮本（尚）委員 最初の呼びかけは環境省EPO北海道から出してもらいました。

井下委員 たたき台をつくったり、こういうふうに進めたいという提案をするのは、全部の団体なのか、実際にどんな感じでこの会議が進んでいるのか、もう少しイメージしたくて聞きました。

宮本（尚）委員 最初に、どうやって進めていこうかという準備会議をやった中で、第三者が入った方がいいということになって、外部のファシリテーターの人をお願いしています。それで、ワークショップをやっています。2010年につきましては、パナソニックからのコンソーシアム助成金が、行政関係ではなくて、NPOを幹事団体とすることという決まりがあるので、きたネットが幹事団体になって、会議資料を作ったり、議事録を作ったりということのうちが主にやっていますが、課題の提出はどこがということほとんど無く、ワークショップの中で出た意見をもとに、次はこれでという形でやっています。

小林会長 他にございませんか。よろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

小林会長 では、次の議題に進ませて頂きます。

3番目の議題は、活動報告書の作成についてです。

事務局からご説明をお願いいたします。

事務局(森) それでは、私の方から、環境首都札幌推進協議会活動報告書の作成についてご説明させていただきます。

資料2をご覧頂きたいと思います。

札幌市環境基本条例第30条によりまして、本協議会は協議の結果を市長に報告することとなっております。

平成21年から約2年間活動してはりましたが、この間の各委員の取組の発表、あるいは市の事業報告、施設見学会の内容を活動報告書として取りまとめたいと考えております。

報告書の内容は、今現在考えている案としましては、環境首都札幌推進協議会の設置の経緯、各委員の取組の発表の概要とそれに対するご意見、ご質問等、札幌市の事業報告の概要とそれに対するご意見、ご質問等、あと、今年から始めました事業モニターです。環境広場さっぽろとかふるさと森づくりの植樹祭に参加していただいておりますけれども、その事業モニターの報告と、今日も行いました札幌市環境関連施設見学会の実施報告というものを考えております。

続いて、作成スケジュールでございますけれども、予定としましては、12月上旬ごろに原案を作成させて頂きまして、委員の皆様にもメール等でその内容をお送りし、ご確認を頂きたいと思っております。中身については、ご意見をいただいた上で事務局の方で修正させて頂きまして、最終的には来年2月中旬ごろに原稿を確定させたいと考えております。校正は2回から3回を予定しております。

委員の皆様をお願いをしたいことは、今お伝えしましたように、校正依頼をさせて頂きますので、お忙しい中を恐縮ですけれども、内容を確認して頂きたいと思っております。また、こちらで原稿を作成する際には、写真等のご提供をお願いする場合もあろうかと思っておりますので、その点もあわせてご協力のほどをお願いしたいと思います。

また、どのような形で報告会を行うかにつきましては、小林会長を始めとしまして、皆様にご相談をさせて頂きながら決定していきたいと考えております。これについては、後日、改めて皆様にもメール等でお伺いしたいと考えております。

今後とも、いろいろお手数をおかけします。いろいろご協力頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひできればと思います。

以上、大変簡単でございますけれども、環境首都札幌推進協議会活動報告書作成についての説明を終わらせて頂きます。

小林会長 どうもありがとうございました。

資料2という1枚物にまとめています。他の会議では、起草委員を決めて、どういうものを盛り込むか皆で議論して、起草委員がせつせと書いて、それをたたき台にして皆でも

むというやり方をしますが、この協議会については、今ご説明いただいたようなやり方、スケジュールを事務局では考えております。

本当は何人が起草委員が出てもむというのが一番いいのですけれども、当たった人は皆大変なのです。それで、たたき台を事務局で作って頂き、それをメールその他で皆さんにお目通しいただいて、修正していく予定です。

このことについて、ご意見ちょうだいしたいと思います。

太田副会長 ポリュームというか、ページの的にはどのぐらいを考えておられるのですか。
事務局（笠原） 大体30ページぐらいになるかと思います。

太田副会長 30ページなら、見るのは可能ですね。

小林会長 なるべく大勢の人に見てもらおうと思えばコンパクトにする必要があります。無味乾燥なものの羅列では印刷費をかけるだけ価値があったかということになりますから、いかに委員以外の方に読んでいただけるか努力しなければならないと思います。

この報告書でこういう方向を明示してほしいとか、こういうスタンスで望んでほしいというご希望はございませんか。

事務局でゼロから今から書いていただくので、もしここで皆さんのご意思があれば確認して、事務局でそれにのっついて書いていただくと思うのですが、よろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

小林会長 どうもありがとうございました。

では、ご協力をお願いしたいこととして、一番下にありますように、本協議会では、皆さんが取り組んでおられる内容のご披露をお願いしたわけです。これは非常に濃い中身であって、今まで気づかなかったことをいろいろな方がなさっているのは素晴らしいと思いました。それで、それぞれの方がご発表された部分の趣旨を取り違えているとか、ウエートの置き方が違うというようなことがないか、最小限ご自分をご披露された中身については目を通していただいて、いろいろ誤解のないようにしたいと思います。

他にございませんでしょうか。

久保田委員、どうぞ。

久保田委員 確認になりますが、この会議自体は今日でおしまいですか。

事務局（小野） はい。

久保田委員 そうすると、最終的に報告書ができ上がって、それを各委員がそれぞれチェックし終われば、あとはもう集まる機会は全く無いということですね。

事務局（小野） 先ほど森も申しましたけれども、報告をどういうふうにするかというところで、もしかしたら集まっていたくことはあり得ますけれども、会議という形では本日が最後と考えております。

小林会長 本当は、原案ができた時点で皆さんにもう一度お集まりいただくのが一番いいでしょうけれども、メール添付が発達したことと、いろいろ経費節減等もあって、個々にメール添付で目を通して頂き、それを合わせるという形で、持ち回り会議ではないけれ

ども、顔を合わせないで合議をして頂きたいということです。

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

小林会長 では、今日の議題(1)(2)(3)が終わりましたので、この辺で事務局にお返ししたいと思います。

事務局(小野) 小林会長、どうもありがとうございました。

最後に、事務局の方から、次期の協議会について少しお知らせをさせていただきます。

先ほどの報告書の関係とも絡む話なのですが、現在の委員の皆様の任期は平成23年3月12日までとなります。平成21年3月13日からだったと思いますので、ちょうど2年間ということになります。任期満了に伴います委員の改選につきまして、現在、事務局、市の方で検討を行っているところでございます。引き続き、また就任をお願いする方々、団体様もあるかと思っておりますけれども、その節は何卒よろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますけれども、本日、見学会から始まりまして、長時間にわたりご参加頂きまして、どうもありがとうございました。今回でこの協議会の委員の皆さんが集まる機会としては最後となりますので、最後に、環境都市推進部長の宮佐から、一言後挨拶を申し上げさせていただきます。

事務局(宮佐) 本日は、長時間にわたりまして、大変お疲れさまでございました。

最後の会議ということで、私から一言後挨拶をさせていただきます。

皆様には、昨年3月にこの協議会の委員に就任していただいてから、これまで大変熱心に活動を頂き、まことにありがとうございました。

会議において、さまざまなご議論をいただいたのはもちろんのことでございますが、特に、今年度につきましては、環境関連施設の見学会、あるいは植樹祭等のイベントに参加していただく等、大変積極的に活動して頂きました。

また、前回の会議におきましては、札幌市の重点課題の一つであります地球温暖化対策の今後の方向性を示した札幌市温暖化対策推進ビジョンにつきまして多くの貴重なご意見をちょうだいいたしまして、まことにありがとうございました。

この温暖化対策推進ビジョンは、今後、今月末になろうかと思っておりますけれども、議会へ報告した後、来月12月にはパブリックコメントを実施する予定となっております。改めてご意見をちょうだいしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

ビジョンでも示しておりますが、今日の環境問題を解決する上では、市民や事業者の皆様のご理解とご支援は今後ますます重要になります。私どもは、温室効果ガス削減の高い目標の達成、さらには「環境首都・札幌」を目指しまして、より一層、業務に取り組んでまいりますので、今後とも、皆様におかれましては、それぞれの団体での活動やこれまでの豊富なご経験を通じて環境施策全般に対して厚いご支援とお力添えを心よりお願ひ申し上げます。

最後になりますが、これまで2年近くにわたってご熱心な活動に改めて感謝を申し上げますとともに、皆様方の一層のご活躍をご祈念申し上げます、大変簡単ではございますが、お礼のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

3. 閉 会

事務局（小野） それでは、以上をもちまして、環境首都札幌推進協議会第7回会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。

以 上